子どもをほめよう

齊藤　尚樹

ひまわりは、太陽の方向へ向く。
子どもは、ほめられた方向へ育つ。

　これは、たくさんの著書がある教育学者の有田和正先生が『心を育てる学級経営』（明治図書：2003 年 6 月）という雑誌の中で書かれたものです。

‘子どもは、ほめられた方向へ育つ。’
教員をしていた頃を思い出すと、その通りだと思います。

　たとえば、学活の時間。
　連絡をしようと、子どもたちの前に立ちます。何も言わなくても、手を膝の上にのせてこちらを注目する子がいます。
「すごい！もう話を聞く準備ができた人がいる。」
　すると、ほかの子も姿勢を正してこちらを注目するのです。

　たとえば、集会や朝会の時。
　上手に体育座りをしている子の後ろで、
「姿勢がいいね。」
と言いながら、肩に手を置きます。
　すると、周りの子もいい姿勢になるのです。

　たとえば、国語の時間。
　１回目の音読の後に、
「～さんの音読はいいなぁ。大きな声が、先生のところまで届いてくるよ。」
と、言います。
　すると、２回目は見違えるような声が教室に響くのです。

　たとえば、算数の時間。
「ノートに日付とページが書けたら、書けましたと言います。」
「書けました！」
「早いなぁ。早い子は賢い。」
何日か続けていると、先に書いておく子が出てきます。
「先生、もう書いてあります。」
「えっ！先に書いてあるの？」
声をかけなくても、いつのまにか学習の準備ができるようになるのです。

有田先生の文章にも、

「こんな子どもに育てたい」というイメージをもっている。
ちょっとでもこれに近い姿が見えたら、すかさずほめる。

‘すかさずほめる。’
子どもを育てる、そして成長させる秘訣です。

　些細なことでも、大人から見れば当たり前なことでも、子どもの望ましい行動が見られたら、躊躇することなくほめる。家庭や学校、そして地域で子どもがほめられる場面が増えることを願っています。